



和算叢書

規矩元法町見

二叔2  
708  
80





規矩充法町見

不求 古川氏清璋述



天口術

視學三法

視

目的ニ望ニテヌラクト立テ見渡スナリ

夕トハ赤子ノ父母ヲ見ル白ニシ慮知私

辨ニワタラサルナリ

觀

場所ニ望ニテ寒暖晴曇風雨霜晨昏昼

夜ノ差別ヲ考ヘ快晴ナレハ目的近ク見ニ至  
レハ目的遠ク見ユルノ類ヲ辨ヘ知ル也

察

嶮難平陸山川泥河ヲ察シタトハ快晴ノ  
日トイヘトモ山谷ニハ霧霞アルノ類スヘテ其  
土ヲ見テ深切ニ察スルナリ

空眼

目的ニ望テハ彼三法ヲ修シテ後大率程里若干  
里或ハ若干町ナト、アラマシ見テトルヲ空眼ノ習白云

トソ平生鍛練スレハ自ラ知ル、射ニ藝ヲ嗜ムモノ  
目的ニ望シテ遠近高下ノ差別ナクホトヨク拳ヲオ  
シアテ、放テハ必ラタル是修練切磋ノ然ラシムル  
處ニシテ町見ノ所謂空眼ナリ空眼ニハ則精眼  
ヲ用フ物ヲ見込ニハ片眼ヲ用フ精眼トハ両眼ヲ  
開テ真向キニ見渡スナ也片眼トハ片々フサキテ  
一眼ニテ見込ムナリ

本體

円規鎖ヲトリ出サ、ルマヘニスラクト立テ臆  
下ラレツメテ

我骨法ヲ辨

知ルノ習ナリ

立テモ坐テモ

本體ヲステハ術不行矣

円規



規矩元法ノ隨一ノ神器ニシテ自在ノ順逆ヲナ

ス一筆カニ尽シ

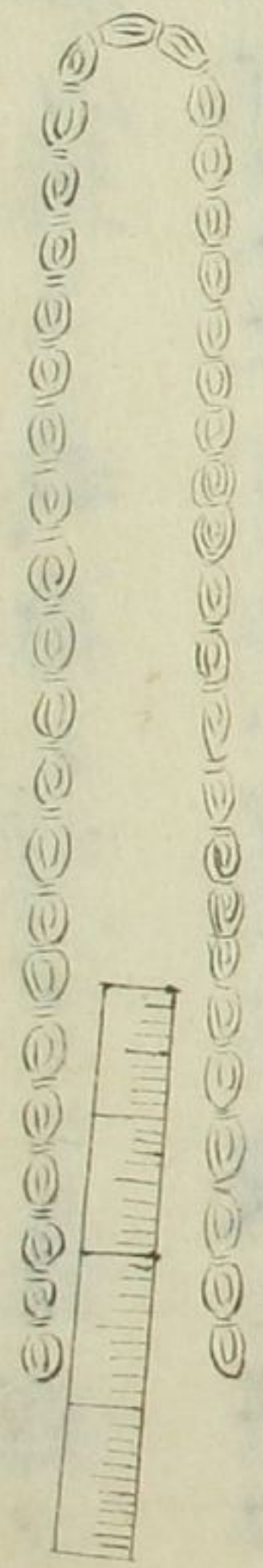


カタシ天口術ニ又是ヲ用フ仍此ニ因ス

鎖

鎖ハ好ミニヨルヘシタ、盈縮ナキヲ旨トスヘシ長其  
人ニ因テ定カタ

シヨロシキニ應ス



ヘキナリ

窺法

譬へハアサタノ遠山ヨリ我居ル所マテ遠程ヲ  
求ント欲セハ如何ニテモコソハツニテ扱ミ其口  
ノ廣サヲシルニ置キ夫ヨリ五間或ハ十間モ  
所ニヨリ三十間モ退キ嚮キノ目的ヲ扱ム其口必  
先ノ口ヨリ扱シ其廣扱ヲタツラヘテ術ニ入ル退  
キカタキ取ハ進ム也假ニ負教ヲ設テ術ヲ施  
ス一丸ノ件々ノ如シ

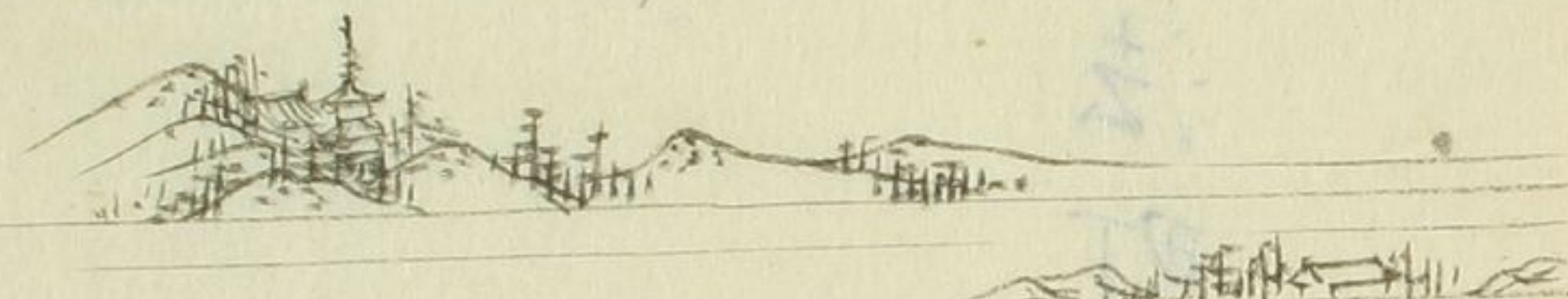
本坐ニテ目的ヲ扱ム一五分カリニ甲ト号ク夫  
ヨリ五拾間退テ目的ヲ扱ム一分半ナリカ  
リニ乙ト号ク

置五十間以乙来之為實置甲減乙為法實如法  
而一即得程里二十一間二尺五寸余

又本坐ニテ目的ヲ扱ム一分甲ト号ク夫ヨリ五  
百間進テ目的ヲ扱ム一分半乙ト号ク術ハ  
前ノ如クシテ程里一千五百間ヲ得

是ヲ天口術ト名ツケテ諸家ニ秘スル處ナリ  
 一術ヲ覺ルルハ見盤水準繩墨ノカラカラス  
 立トコロニ程里ヲ得テレ

窺図



規矩亢法町見畢

